

〔編集後記〕

千葉医学雑誌の第89巻3号をお届けいたします。本誌のサイズをB5判からA4判の大きなものにし、同時に表紙のデザインを千葉医学雑誌のシンボルカラーである臙脂色を基調に残しつつ、新しいものに改定してから、早いもので2年半が経ちました。この件に関しては、編集委員会でもかなり長い時間をかけて、慎重に案を練ってきた経緯がありました。それは、ある年の千葉医学会総会で、千葉医学雑誌を電子版にしてしまい、印刷物の形は止めた方が経費削減の上でも良いのではないかという意見があったからです。皆が自分のパソコンで千葉医学雑誌を見れば済むではないかという内容でした。私はその考えには賛同出来ない旨の返答をいたしました。その理由は私の中では明確で、反対理由を幾つもあげることが出来ませんが、ここでは省略いたします。そのようなわけで、新しい号には各委員の様々な思いがいっぱい詰め込まれておりました。しかし、皆様のもとにこの新しい号を発送する段になり、とても長い歴史と伝統のある雑誌をこのように変えてしまっただけで本当に良かったのだろうかと言う思いが強まりました。また、発送してからもこの思いは続いておりました。そんな時、会員の先生方から手紙や電話で編集委員会への様々な激励が多数届きました。あの時の感動は生涯忘れないと思います。会員の皆様の温かい応援に大変感謝いたしております。

今回の千葉医学雑誌第89巻3号には、第89回千葉医学会学術大会のプログラム及び、山浦 晶先生による特別講演「千葉県の医事紛争処理システムは日本一」の抄録、そして、佐伯直勝先生による招待講演「脳神経外科医療 現在・未来」の抄録が掲載されております。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。〔展望〕には石井伊都子先生の「真のファーマシューティカルケアをめざして」が掲載されています。とても参考になる読み応えのある内容です。〔研究紹介〕は2編です。小見田真理先生たちによる「小胞体ストレスと疾患」と本折 健先生たちによる「画像診

断・放射線腫瘍学」です。前者は、小胞体ストレス反応に着目して種々の疾患の病態解明をめざすという内容で、私どもの研究室でも細菌毒素による小胞体ストレスと病態の関係を分子レベルで研究を行っておりますので、大変興味深く拝読いたしました。後者は、「放射線医学」講座が「画像診断・放射線腫瘍学」と正式名称が変わりましたが、伝統ある教室の歴史・活動等の紹介であります。〔話題〕は高野光司先生の「ゲッティンゲン大学における私の神経生理学講義 (1)」であります。高野先生にはこれまでもゲッティンゲン大学に関して多数の御寄稿を頂き、そのどれもがとても高い人気で、心待ちにしている会員も多いと聞いています。今回もどうぞ存分にお楽しみください。〔海外だより〕は宮下智大先生の「アデレード留学記」であります。この町は私の好きな町のひとつで、多くの思い出があります。宮下先生のオーストラリアでの活躍・奮闘ぶりを本当に懐かしく拝読いたしました。〔学会〕は臓器制御外科学教室談話会と総合安全衛生管理機構の2編です。多くの先生たちの研究に取り組む真摯な様子が目に浮かびます。また、各領域の最先端の研究課題等の把握にも最適だと思います。オープンアクセスペーパー (OAP) は英文論文が基本で、本誌の目玉のひとつです。今回は小川裕也先生たちの症例報告1編で「Revision surgery for pseudarthrosis and implant failure after pedicle subtraction osteotomy in a patient with adult kyphosis」というタイトルです。邦題は「後弯症矯正術後の偽関節に対する前後合併再手術の症例報告」で、日本語の要旨も掲載しております。

千葉医学雑誌の編集委員会では、本誌の更なる内容充実に努めて参ります。また、出来るだけ現在のような印刷物のかたちで続けて行きたいと思っております。会員の皆様の忌憚のないご意見・ご要望をお待ちしております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

(編集委員長 野田公俊)